



災害時の活躍が期待される消防団員と市消防本部職員。出雲市消防出初式には約1,400人が参加し、まちを守る決意を新たにしました（写真は式後の出雲消防団による放水訓練 1月7日 出雲ドーム前）

# 災害への備え

## ～平成18年7月豪雨

防災についてのおたずねは  
総務課防災係（TEL 21-2211 内線2131）

## 地域の防災力を 向上しよう

### 地区自主防災対策組織の立ち上げを促進

災害時には、地域を熟知した住民の皆さんの協力が必要になります。平成18年7月豪雨でも、自治協会、土木委員会、消防団などを構成員とする地区災害対策本部が設置された地区では、避難情報の伝達や避難誘導などがスムーズに行われました。

市では、未組織の地区に結成を呼びかけています。地域で話し合ってみませんか。



窪田地区自主防災訓練では、災害対応マニュアルをもちに、地区防災訓練を行うなど、被災状況を報告する（昨年11月5日窪田コミュニティセンター）

### 災害対応マニュアルを 作成しました 窪田地区

平成18年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた窪田地区では、昨年9月に窪田自主防災会を発足し、災害時の連絡体制などを定めた災害対応マニュアルを作成しました。

#### 窪田地区の自主防災基本方針

- 自主** 「自分のこととして」
- 互助** 「近隣が助け合い」
- 生命** 「最小限の安全を」

この基本方針により、地区住民みんなが手を取りあって、災害に強い窪田をつくるよう取り組みを進めています。

### 自力での避難が困難な人は災害時要支援者ネットワークに登録しましょう

昨年10月に、高齢者や障害者などの避難を支援する災害時要支援者ネットワーク事業を開始しました。出雲市と民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会が協力して行うもので、緊急時に地区災害対策本部と連携し、支援者や消防団員などが避難を手助けします。

事前に登録が必要ですので、気軽に申し込みください。

対象 / 独居高齢者、高齢者世帯、重度障害者

申し込み・おたずね / 福祉推進課（TEL 21-2211 内線4111）・各支所福祉担当課、お住まいの地区の民生委員

# を万全に

## 災害を振り返って～

市内各地に大きなつめ跡を残した平成18年7月豪雨災害から半年が過ぎました。市では、この災害を教訓に、さらなる防災体制の充実に努めています。家庭や地域でも、災害がいつ起こっても、あせらずに冷静な行動がとれるように備えを万全にしておくことが大切です。防災について一緒に考えてみましょう。

## 災害が発生した（おそれがある）場合に

平成18年7月豪雨災害を教訓とした防災対策の一部をお知らせします。避難するまでの流れを再確認しましょう。

### 避難の呼びかけ

サイレンやケーブルテレビ、有線放送、防災行政無線、地区自治協会の連絡網、広報車などで避難を呼びかけます。

**教訓** 就寝時などで、避難の呼びかけが的確に伝わらないことがあった。

**対策は...**  
サイレンの増設、FMいずものエリア拡大やJAIいずも告知放送の支援、携帯メールの充実を検討し、二重三重の伝達方法の確立を進めます。災害のおそれが深夜にかかると思込まれる場合には、夕食の時間帯などに避難準備情報を出し、早めに避難勧告・指示（命令）を発令します。

### 避難誘導

災害状況を踏まえ、地域に精通した消防団などが避難誘導にあたります。

**教訓** 危険箇所の警戒などに消防団員が多く出動し、十分な誘導ができなかった地域があった。

**対策は...**  
隣保・町内単位での声かけや、町内会の役員などに避難誘導の協力をお願いしていきます。

**教訓** 避難所に浸水したり、増水した河川に阻まれて避難所までいけなかったりがあった。

**対策は...**  
すべての指定避難所を総点検するほか、緊急避難するための一時避難所（指定避難所に避難するまでに一時的に一晚程度を過ごす場所）や避難経路について、地域や町内で話し合いを進めます。浸水と土砂災害それぞれのハザードマップ（被害予測図）を作成中です。平成19年度中に完成する予定です。

### ①自宅で待機して情報を収集

大雨などで災害のおそれがある場合は、ケーブルテレビ、有線放送、防災行政無線などで情報を収集しましょう。かけ崩れのおそれがあるなど、身の危険が感じられる場合は自主的に避難することが大切です。



### ②避難所へ速やかに移動

非常持ち出し品を持って、避難所へ向かしましょう。車での避難は混雑が予想されるので乗り合わせてください。



### ③避難所に到着

